ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
E1440017	知的障害児の心理アセスメント　(Psychological Assessment of Intellectual Disabilities　)		

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択必修	2	3	教育学部			氏名　佐藤　晋治 E-mail　ssato@oita-u.ac.jp　内線　7531

授業の概要	
	知的障害を有する児童生徒のための心理学的評価の方法論、及び結果の解釈に基づいた個別の指導計画の立案の実際について学ぶ。

具体的な到達目標

		DP等の対応(別表参照) 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	発達に関する心理学的評価（個体に関する評価）の理論について論理的に説明できる。		○	○							
目標2	特に知能検査の理論と実際について論理的に説明できる。		○	○							
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	発達的アセスメントの意義
2	知能検査の三つの波
3	新しい知能観－CHCモデルと流動性推理－
4	WISC-IVの実際（積木模様、類似の実施法）
5	WISC-IVの実際（数唱、絵の概念の実施法）
6	WISC-IVの実際（符号、単語の実施法）
7	WISC-IVの実際（語音整列、行列推理の実施法）
8	WISC-IVの実際（理解、記号探しの実施法）
9	WISC-IVの実際（絵の完成、絵の抹消の実施法）
10	WISC-IVの実際（知識、算数、語の推理の実施法）
11	WISC-IVの実際（心理検査統計の基礎知識，結果の処理）
12	WISC-IVの実際（ディスクレパンシー分析，プロセス分析）
13	WISC-IVの結果に基づいた解釈
14	WISC-IVの実際（個別の指導計画の立案）
15	授業のまとめ

アクティブラーニング				その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	演習，小テスト，小レポート，予習，復習，宿題，調べ学修（論文，書籍，インターネット等） プレゼンテーション，学びの省察， ロールプレイ		動画の活用，LMS(Moodle)の活用
B:意見の表現・交換	○			
C:応用志向	○			
D:知識の活用・創造				

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	Moodleに掲載された講義資料を事前に予習し，必要に応じて，論文，書籍，インターネット等により「調べ学修」に取り組むこと（１週あたり90分）。
	事後学修	講義で学習した内容を振り返り，講義で扱った内容や関連する課題について論文，書籍，インターネット等により「調べ学修」に取り組むこと（１週あたり90分）。

教科書	上野一彦他（著）　2015　日本版WISC-IVによる発達障害のアセスメントー代表的な指標パターンの解釈と事例紹介ー　日本文化科学社　2,900円（本体 2,685円）　ISBN978-4-8210-6371-0 適宜，必要に応じて資料をMoodle上で配付する。
参考書	必要に応じて，なるべく最新のものをMoodle上で紹介する。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
期末試験	60%	○	○								
積極的な受講態度など	20%	○	○								
小レポート(含むコメントシート)	20%	○	○								

注意事項	講義内でMoodleを使用することがあるので，Moodleを閲覧できる媒体（スマホ，タブレット端末，ノートPCなど）を持参すること。また少なくとも週に１度はMoodleのこの科目のページを閲覧すること。
備考	
リンク	URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	臨床心理士、学校心理士